

SAKだより

神奈川県スキー連盟
横浜市神奈川区台町16-1
ソレイユ台町 407号室
電話 045(311) 8907
発行者:清水 清則
編集:門 誠 蔵

加盟協会17団体に！ 津久井スキー協会が発足

県連加盟協会が17団体になりました。
津久井町、藤野町、相模湖町、城山町からなる「津久井、協会」が発足しました。
津久井協会は右図のごとく神奈川の上部に位置し、スキー場への最短距離にあります。
21世紀に向けて期待されて行く協会でしょう。

津久井スキー協会位置図



始めまして、「津久井スキー協会」です。おかげさまで昨年度から登録を認められました新参の協会です。郡内の人口およそ六万五千にすぎない小さな地域なので、それなりにスキー人口が少ないのは当然です。しかし、古藤会長以下のスタッフは完全なスキーフーリで、組織人口では他の先輩協会にはかきませんが、情熱だけは

一二時頃には帰着、翌日は出動。などのパターンが多く見られるのも当協会の特長であり、利点であると思えます。
さて話しは前後致しますが、当協会の発足に当り、相模原スキー協会には特別にお世話になりました。当協会が出来るまで、指導員の受験、県連への登録等に際しまして大変お世話になりました。そのおかげを持ちまして、現在の「津久井スキー協会」があるものと感謝に絶えません。特に多くの指導員等を擁し、その者等を中心にスキーの発展の為に頑張っております。これも偏に、相模原スキー協会会長三塚正三郎氏を中心とする方々のおかげと感謝し、紙面を借りてお礼申し上げます。
終わりに、出来たてのホヤホヤの協会ですので先輩諸氏の御指導ご鞭撻を賜わりながら、おかげさしいようですが、共に神奈川県スキー連盟の発展の一助となりたく願っております。今後とも宜しくお願ひ申し上げまして発会の挨拶と、お願ひと致します。
津久井スキー協会



理事長 清水 清則

〇仲間が増えました。
六十一年度津久井スキー協会が加盟され、六十二年度には南足柄市スキー協会が加盟され、県連加盟団体は十八協会となりました。仲間が増えることは、県連にとって誠に喜ばしいことです。協会設立に当っては、いろいろな苦労がありました。長年月設立に努力された方々は勿論ですが、周囲の先輩諸氏の指導と援助も見逃すことはできません。今回二協会誕生にご尽力下さった先輩諸氏に心からお礼申し上げます。協会はその地域の所属団体(クラブ)を統轄し代表する団体で、全日本スキー連盟傘下の団体として、スキーの普及発展、技術の向上等、協会の大小

信濃路国体も快挙

乳井学が西館建吉で二位

信濃路国体
第42回国民体育大会スキー競技会
〇会期 昭和62年2月19〜22日
〇会場 長野県北安曇郡白馬村

今年の国体は久しぶりに白馬で開催されました。私自身前回の白馬国体は選手で参加した思い出のある地でした。今年はその選手が充実して、十位以内を何と終了の時点で、十位以内を何とかねらえそうなお雰囲気でした。しかしこの学生の優秀選手をそっくりユニバーシアードに取られてしまいで半減しました。
それでも残った選手が健闘し昨年と同じ十二位の総合成績となりました。
特に複合競技の西館選手は昨年

お願い致します。(佐々木)

大回転競技

- 成年女子二部 悪七由美子 横浜市役所 十三位
- 板尾 友子 日本IBM 二十五位
- 成年女子一部 井上 玲子 シバノ六ツ 三〇位
- 西田 真美 川崎女子大 四十五位
- 少年女子 村元由美子 関東学院高 六十一位
- 成年男子二部 柏木 勉 川崎ウルル 三十四位
- 江部 広治 富士通 四十一位
- 荒谷 芳房 関東自動車 五十一位
- 成年男子一部 谷川 和久 専修大 四十三位
- 竹節 伸一 慶応大 四十五位
- 伊藤 昭彦 川崎スキー 五〇位
- 佐藤 寿夫 NEC玉川 五十九位
- 少年男子 山口 崇国 横浜高校 六十二位
- 三井 伸介 横浜高校 六十五位
- 鈴木 康朗 法政二高 九十六位
- 海野 太郎 慶応高校 一〇六位

クロスカントリー

- 男子一五km 赤沼 友英 専修大 二三位
- 渡辺 考司 日体大 四三位
- 倍償 耕二 東芝スキー 八一位
- 成年男子二部 松尾 泰行 ユーベル 四〇位
- 成年男子三部 乳井 学 松蔭女子短大 二二位
- 北川 松男 横浜スキー 三〇位
- 女子一部 清田美由紀 松蔭女子短大三二位
- 大矢 晴美 松蔭女子短大三三位
- 女子5km 豊田美津子 横浜スキー 一三位
- コンバインド 西館 健吾 雪陵スキー 二位
- 純ジャンプ70m級 成年一部 高梨 寛也 日体大 三五位
- 成年二部 西館 健吾 雪陵スキー 五位
- リレー 十三位

躍進する県連

にかかわらず同じ権利と義務をもって活動しなければなりません。又地域においてもスキーを通じて住民サービス及び官公庁に対する協力等協会の任務も益々幅広いものとなって来ましたが、新しい協会運営に当っては何かと難かしいことが多いことと思えますが、新しい角度と中広い視野に立って立派な協会に育てて下さい。又県下会員の皆さんも新しい協会に機会ある度に積極的な協力を下さいますようお願いいたします。

〇県連の改革

六十二年度から次のように改革いたします。皆さんの理解とご協力をお願いいたします。

△専門委員会の活用

今日の県連組織が膨大なものとなり、担当理事だけでは充分な運営ができなくなり昨年より専門委員会制度を発足し各都府で活躍して参りましたが、本年度は昨年度の反省と今後の検討を重ね、益々充実した運営を図ります。今後は各協会より有能な人材が進んで参加していただき、県連発展のため活躍していただきますようお願いいたします。

現在の県連の情報伝達は、諸会議、諸報告、通知、各行事と、いろいろな方法によって行なわれていますが、会員ひとりひとりに直接伝達される手段として「県連だより」の果たす役割は非常に大きなものがあります。その意味で編集に当たる広報委員各位は、どうしたら会員の皆さんに喜んで読んでもらえるかと、新しいアイデアを持ち寄り中広く多くの情報を提供することに努力しております。

指導員24名合格

期日 昭和62年2月26日〜3月1日

受験者数 全国 1,175名
合格者数 24名(全国 678名)

合格者

昭和六十二年度正指導員検定会が第一会場から第五会場にて、同時開催された。我が県から二十四名が合格した。今後の活躍を期待します。

第一会場 大沢 保男 横浜教職員
小塚 久雄 横浜教職員

第二会場

- 藤田 忠男 川崎スキー
- 本田 俊章 横浜教職員
- 柳沢 和子 県庁スキー
- 岡田 秀男 横浜スポーツマン
- 戸嶋 洋治 ベガス
- 田中 義孝 日立戸塚
- 平川 博基 横浜市役所
- 金内 栄一 小田原アールベルグ
- 田中 紀雄 川崎雪陵
- 三上 久直 横浜スポーツマン
- 沢岡 博明 藤沢いすず
- 東海林延友 藤沢バイスバウム
- 大井 智子 スキー虫クラブ
- 三木 雅子 パノラマ
- 上村 久 厚木ソニー
- 阿部 一三 神奈川若葉
- 中川 和久 神大アルペンクロ
- 後藤 雄孝 相模ハーモニ

第四会場

斎藤 嘉治 小田原アールベルグ

第五会場

- 岩間 道雄 ウィグスキー
- 渡辺 雅一 ウィグスキー
- 近藤 公昭 神奈川若葉



第13回 インタースキー日本公式視察団

懇談会

昭和62年 6月13日(土)
川崎「松竹」にて



バンフ・インタースキーに神奈川県から参加した13名の方々に御集まりいただきカナダでの思い出話と写真交換会を開催しました。

司会 まず始めに、カナダインタースキー団長として参加した松浦先生に今回のインタースキー全般の感想とその成果についてお話し願います。

松浦 団長と言う重大な責任を持って行ったわけですが、私は、私は団長として行ったのは、チェコの時に責任者団長として行ったのと今度二回目になります。

それ以外で行ったのは、カルミッシュに始まって、チェコスロバキヤ、蔵王、イタリーと今回で五回になりますね。またインタースキーを手掛けたのは最初から、デモンストレータ、基礎選手権の始まりの一番最初のデモができた時の強化コーチをやっています、私と小島弘平さんが強化コーチをやっています、その時の生徒には、岸英三、元木君とか平沢、丸山庄司、丸山周司君などのいた第一回からの最も古いと言う経緯があって、こんどのインタースキーでは責任ある立場で行った訳です。

私なりに手前味噌ではないけれど成果としては、連盟サイドからすると非常に成果があった。

その第一の要因というのは、SIAと共同で行ったけれども実質的なナショナルデモの演技については、SAJが一本であった。しかし、SIAとしては当然自分のところにも何人が回ってくるだろうと思っただろうけれども、それは技術の差があつて、出せれば出さなかったけれども技術の差がありすぎて、やはりスキー連盟がやらなければならないというような事を含めてスキー連盟の技術の評価を含めて良かったし世界各国内からの評価も良かった。

それから考え方から行けば、もうSAJもSIAもない。もつすべて基礎・競技含めて一本化していくのがこれからのスキー界のあり方であり、そういう為にもスキー連盟の多くの対象構成から見てもこれらの受入環境をおおらかに見てやらなければならぬ。

また、SIAも謙虚にSAJの中に溶け込んで入って行くという姿勢をぜひ持って貰いたい。

今度出来て来た文部省国家認定の指導者についてもそういう一体化の中で体協傘下のスキー連盟に資格付与の権限が与えられてその中で行っていくとゆうことを願っているんです。この事についてはまだ文部省と継続中だけれどもそういう事を含めてある面では、将来のものとして、あるいはインタースキーへいく考え方についてもそういう考え方をしていきたいというのが大きなきらいなんです。

そういうことを踏まえて行っただけに、多少SIAとして不満であつたかも知れませんが全般的に見ても良かった。

技術的についても、従来の何かこせこせした小さなものから大きな孤の中の、ずれのターンと切れるターンと大別すれば、その中の応用範囲が小さなターンや大きなターンの中でも生かされてゆく、あらゆる場面に生かされて行くと言つような意味でもそういう多様化した時局の中で対応できるスキー

Iという事で良かった。

司会 神奈川県から一番多く参加したCコースのウイスラーコースを代表して片岡さんにその印象をお話し願います。

片岡 まず第一に感じた事は、近いということ、東京から蔵王や志賀へいく時間と代わらない、九時間から十時間という、むしろ近いくらいで行けて、しかもあの大きなスケールの大自然の中で滑ることが出来るという事。

標高差が、ウイスラースキー場で約一・三キロ、ブロッコムスキー場が一・六キロ位あつて、特別急でもなくまた緩くもない整備されたゲレンデが自然林の中にうまくレイアウトされ、8キロ以上のロングコースが永遠と続いていると言つ印象だつた。

また夜は、ウイスラー・リゾート・アソシエーション(観光協会)とホテル・ホテルそしてアソシエーションの副州知事が駆けつけての歓迎レセプションとディナーが催され日本とカナダとの交流を深める事も出来たようだ。

司会 最終日に、ハワイを回って回ったDコースで参加した嵐さんにお話し願います。

嵐 ハワイ周りでなく、アメリカユタ州の各スキー場の視察で、ハワイはちょっと寄つただけなんです。

松浦 今回は、デモンストレータと役員だけで行くものでなく多くのスキーの指導者を含めたスキーに関心のある人たちが行つていて、ただインタースキーのそれだけに参加して帰ってくるという時代から色々な国との交流を含めて、みんなに学ばせて理解させて、帰って来ると言うことが非常に重要であると考え、このような企画をしたということは大変意義があるものになつた。

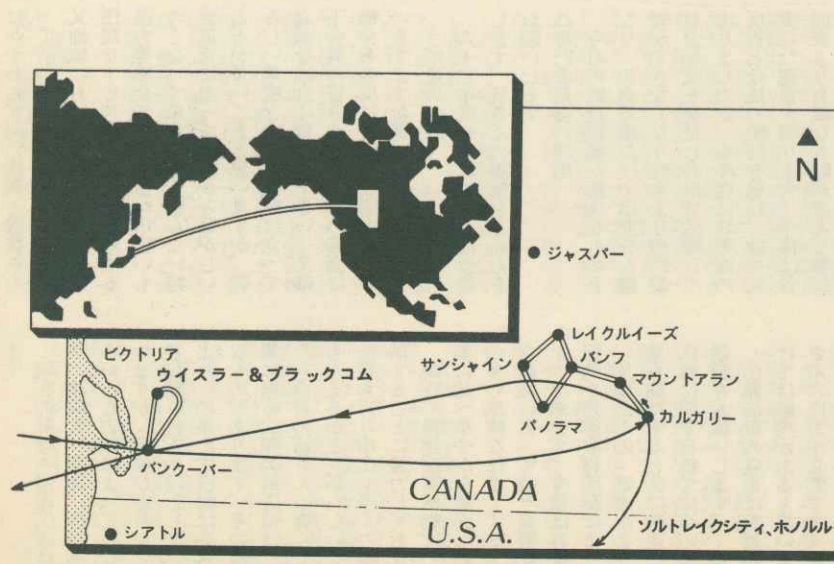
そしてデモにも、今度は奥さんも連れて行つていいと、そして帰りには、ほんの一時であつたけれどもハワイを回つて、そこでいままでの緊張のストレスを解消して帰れた。これは画期的なことであり、本来はオリンピックの色々な競技その他のものからいくと本当に画期的なこと、色々な処か

らおこられるかもしれないが、今後のひとつの指針にもつながると私は考えている。

司会 最後に、バンフに行つてバンフから帰ったAコースの渡辺さんにみんなも知っているバンフの印象を。

渡辺 僕はみなさんと違うAコースで行つたので、本部のあるスプリングスに泊まったのですが、観光カナダのシンボルとも言えるこのホテルも、一千人を越える宿泊客を迎え、その機能もマヒ状態でした。なにしろ深夜十二時過ぎにやっと部屋に入れたんです。それも先発している松浦先生の部屋へ、三日間いそがしくさせてもらたんです。おかげで日本のトップの方達の面識を得ることもでき、いい経験をさせてもらいました。

そこで感じたことは、日本チームの代表である先生がいかにお大変だったかですね。体調も決して良い状態ではなかった様ですが、夜遅くまでの打合せが続く、睡眠時間も充分取れなかったようです。そこで、出来るだけ先生の手助けをと思つたんですが、頼



さがあつたけれども思つたより寒くなかつた。

ただ会場の斜面構成それから設備についての、環境整備については今一つというところはあるし、それからもう一つは、今度は各国の演技そのものがシヨリックなものに走つて、何か基本的な各国のオリジナリティーが薄れて、やはりその辺の所をもっと大切に各国は出すべきではなかつたのか、もう少し技術の本質をとらえて、そしてなおかつ一般スキーヤーとの接点をつなげた、楽しませるスキーというものを考えていく時代になるだろう。

それからもう一つ私が、ウイシユラー会長に提言したことは、今日本では、日本基礎選手権というものもやっている。あのようなものの演技を各国で何かをやることによつて点数を付けあつて評価して行くと、何か新たなものがインタースキーの中で出てくるのではないかとゆうような提言をした。非常に関心を持ってウイシユラー会長は帰つた。インタースキーの

レクチャーの写真は失敗するし、あまり役にはたなかつたですね。司会 バンフの町やホテル等の受入態勢はどうでしたか。

松浦 いろいろホテルの受入環境で、ホテルが予想以上に客を取りすぎてしまい、皆さんに不便を与えたり、不快感を与えたり誤解を受けたりして、トラブルもなかつたわけではない。

それからSIAともいろいろな交渉を含めて決めていく過程でいろいろな事があつたけれども、そういうことは一つの場合でもあることで、それを一々小さな事をどうのこうのというのでなく、やはり次の反省の中に入れてより良い形で行くということが大切ですから、これを決して無視したりないがしろにしないで、それを謙虚に受け止めて行くと言うのが執行部の団長としての考え方です。

司会 会場のほうはいかがでしたか。

松浦 意外な事にバンフはカナダでは寒いだろと思つて行った所それほど寒くはなくて、前に行ったとき一度だけ零下二六度という寒

将来はそういう事も含めて考えなければならぬ。

この後、皆さんに多くのお話しを頂きましたが紙面の都合(実は、録音の失敗)により省略させて頂きましたのであしからず。

◆座談会参加者◆

松浦益司郎

嵐 要

鏡 考作

中野善次郎

松井 隆一

三池田淑子

吉岡 幹雄

江成 陽子

片岡 春夫

鈴木 正文

丸山 禮子

山崎 勉

渡辺 智文

インテックスキー報告

全日本スキー連盟から出す正式な報告書は、もう近じか7月の末ごろには、出る予定ですから、それには演技をした主要国の十国位ですけれど、その演技内容を全部向うから来ているデータを訳したものが出ますから、それをぜひ県や各指導者の方が読んで頂ければ、世界の傾向を含めて御分りになるかと思つています。

バンフ

バンフは不思議な町である。人口5千人の小さな町で、よほど詳しい地図でないとは出ていない。なのに、日本では来年のオリンピックの開催地、カルガリーよりもよく知られている。カナダ観光のメッカである。

バンフはそのカルガリーから2時間、ロッキーの山合いに入ったところにある。町には一〇〇人以上の日本人が住んでいて、そのほとんどが、日本人相手の観光関係で働いている。町の中央には片側



三車線の大通りが南北に走り、両側にはレストラン、ホテル、土産物店が並び、(巨泉のショップもここにあり) 建物ほとんど二階建てで、どちらかというと西部劇の町を連想させる。しかし、やはりカナダなのは、空が広くひろがり、そこにはロッキーの岩山がどっかそびえ立っている。

緯度は日本の最北端より遙か北で、町中は雪こそ少ないが、この時期だけでも氷点下20度はゆうに下がるという。幸いインタースキーの会期中は天候に恵まれ、暖かい日が続いた。

今回インタースキーの本部になったスプリングス・ホテルはバンフの町の南側に位置するボウ川を隔てたサルファー山の麓の樹林の中に城館の様に建っている。

この山は大陸横断鉄道工事のさい、温泉が発見され、今でもバンフの人達や観光客に寛を与えている。日本の温泉と違って水着を付けて入る。温水プールみたいなもので、あまり情緒はない、露天であるが、冬でも寒くなく屋内から温水につかって出入りできるように工夫がされている。

第13回インタースキー視察団に参加して

吉岡 幹雄



前回のイタリア、セックステンにも参加した小生にとって今回は各国がどのような演技発表をするのか楽しみであった。

日本の発表は現代のニーズに合わせるものとして、ヴァリアブルスキーイングとして発表された。それは高速性と安全性をトータル化したものとしてのものであり、又マテリアル(用具)の進歩と技術をトータル的に考えた実践的な方法論であった。

具体的にはスキッピング(すれ)とカービング(切れ)であり、前後、左右への荷重移動など、いろいろな舵とり操作を可能にすることを技術の習得目標としています。

各国の演技の中で西ドイツのオーバーアクションの動き、オーストリアの高速ターンの素晴らしいアメリカのリズムに乗った指導法



ホテルの歴史は古く、一九二〇年に建てられたが、その後建てか



りあり? ホテルの歴史は古く、一九二〇年に建てられたが、その後建てか

など、各国が独自の指導法をもっていて勉強をさせてもらいました。今回参加したのは指導員会の片岡幹事長と私、その他の人と、いつも七人で動いていました。

カナダ航空に乗り成田を出たのが十三日夜バンクーバーに着いたのが十三日朝でした。

まず着いたスキー場はウイストラで、ここで二ヶ所のスキー場を滑りました。特にブラックコムスキー場は最高、ノンストップで約5kmを思いっきり飛ばしてきました。ホテルへ帰ってからはサウナとプールです。これがまた最高でした。

バンフへ移動し、いよいよインタースキーの開会です。世界各国の新鮮なユニフォームが勢揃いした中で開会式でした。

毎日どこかの国のデモンストレーションを行っています。その合



えられて現在にいたっている。その内部も重厚で、中世の城を思わせる造りだが、屋内プールやショッピング・モールが備わっていて意外と近代的でもある。

間をぬって他のスキー場へでかけます。サンシャイン、レイクルイーズ、マウントノーケイト、各スキー場を思いっきり滑りまくって来ました。なんともスケールの大きい日本では考えられないスケールです。雪質も最高、思い出深いスキー行でした。



The Delta Mountain Inn
4050 WHISTLER WAY VON 1B0

Paul Osa

「デルタのよさは快適な部屋だ。けじめがない。スタッフがつくりだす明るくフレンドリーな雰囲気。マイホームに帰ってきたようなく

つろぎを与えてくれるのだ。冬期間常駐のポール大野さんは面倒見のいいゲストコーディネーター。」とPaul Osaが臨時増刊に紹介された大野氏、成田を夕刻にフライトして約九時間、いささか時差ボケのさつそくホテル設備の使用法とウイストラ・ウイレッジの魅力そしてウイストラスキー場とブラックコムスキー場を紹介する従業員の手作りビデオによりきめこまやかな説明をうけて、身も心もアンドンだ。

英語の世界でどうすればと心もだるくデルタホテルのフロントに立つ、添乗員の三浦氏に紹介された大野氏、「英語なまり」が強い日本語が印象的だ。

さつそくホテル設備の使用法とウイストラ・ウイレッジの魅力そしてウイストラスキー場とブラックコムスキー場を紹介する従業員の手作りビデオによりきめこまやかな説明をうけて、身も心もアンドンだ。

大野 正晴 S A J 指導員の資格をもち8年前の蔵王インタースキーにカナダ選手団と参加、今回インタースキーは日本選手団の通訳として活躍、現在ナイヤガラデルタホテルに常駐中。

ウイストラ発
鈴木特派員だより

カナダはとも近い国です。飛行機で約七時間、志賀高原や蔵王などより近い位です。その中で近いのがウイストラです。

ウイストラはとも良い所で、スキーリゾートとして開発されたところであり、機能的に優れています。今回のインタースキーで行った色々なスキー場の中で歩いて行けるスキー場はウイストラだけでした。正式にはウイストラ・ピレッチと言いますが、ウイストラスキー場とアラックコムスキー場が有ります。どちらも長野の八方尾根スキー場の倍以上の規模が有ります。そのくらいですからとても、パッパいなスキーをエンジョイ出来ます。

さて、ピレッチはどんな雰囲気なんでしょう。とにかく回りは外人さんばかりで圧倒されます。当然なんです、カナダなんです。ピレッチ全体の雰囲気は北風でもあり、アメリカンスタイルでも有ります。しかし、とても良

くまとまっていると思えました。スナックやレストランで一品料理はともボリュームが有り、アラックコムスキー場のまんなにあるイタリアンレストランでは、ピザなどは二人では食べ切れないくらい大きく厚く、そしてシランブサラダ(小海老のむき身サラダ)などに至っては大皿に盛り、初めてそれを見た時はあきれかえって何も言えませんでした。そして全般的に「美味しい・安い・ウェイトレスはきれいで、愛想が良い」の三拍子そろっています。日本のように「高い、不味い、愛想が悪い。」と言うような事はありませんでした。スナックなどでビールを飲んで人々は豪快に飲み、笑い、雰囲気を楽しんでいます。カラオケもなし、ただ楽しそうに歌っているだけでした。そして日本人が珍しくないのか、そう言う人柄なのか、特別な目を向けません。皆同じ仲間として見てくれるようです。

そして、回りの人々はとも親切でした。ドアを開けたりするとき、次の人の為待っていてくれたりします。次の人が男だろうと女だろうと関係なく待っていてくれます。とても今の日本では考えられません。

そして何よりも他のバンフやカルガリー、バンクーバーと違って一番良かったのは、日本人が、日本語が、氾濫していない事です。バンフやバンクーバーでは、日本人が溢れ、日本語が氾濫し海外旅行の雰囲気が出なかつたので、余計ウイストラが良かったと思えます。とても雰囲気良かったこともあり、カナダから帰った月から早速定期積み立てを始め、二年後には又カナダ、特にウイストラに行く予定です。しかし、月々の生活が苦しくって、でもとても楽しみにしています。

「ウイストラ良いと二度はおいで、料理は美味しねーちゃん」は奇麗だ……

合格者(順不同)	
(横浜)	砥綿義徳 兵藤政己 中川 要子
	溝口 謙 岸田吉雄 長田 健
	溝口 潔 樋口俊彦 沼田 司
	橋野幸三 田中 恵 小笠原明子
	小島 薫 岡田高文 佐藤勝十志
	小野 聡 桜井俊輔 宇野 敬
	平尾真理 柳田英俊 佐々木生道
	神田美香 小林弘明 越中伸彦
	山岸成江 立林 育 安沢友見子
	須藤文彦 小林 登
(川崎)	武田克彦 下野豊一 末広 明夫
	鈴木淳子 松本雅博 日下直美
	村石 清 平山 仁 柳沢 秀行
	橋川康宏 高柴一彦 高柴 淳義
	宮崎正樹 須藤文彦 喜多川昌子
(藤沢)	市川義昭 星 均 三本松俊夫
	黒川徹也 高山晋作 工藤 雄二
	鎌田 充 岡崎 環 青山 英孝
	園部 修
(相模原)	永瀬正実 片岡康男 大神田 真
	松永広司 市川和彦 今牧 宏志
	工藤 護 小林純美子
(小田原)	松浦哲也 松浦政博 上原 邦嗣
	田代祐司
(横須賀)	上島秀男 樋田公郎 秋山 昇男
(茅ヶ崎)	吉留宏美 細井雄一
(平塚)	塩谷重治 金子理人
(鎌倉)	穴田峰昭 滝沢信宏 卯之原正樹
(厚木)	川上 誠 田代和彦

準指導員検定会

会期 昭和62年3月6日~3月8日
会場 車山高原スキー場

受検者 162名
合格者 78名

小田原スキー協会 25周年

— 4万円の記念行事 —



そろそろ来シーズンの準備に掛かろうという今日この頃、少し話は古くなるが昨年の秋の事である。

昨年、我が小田原スキー協会は創立二五周年を迎えた。二五年と言えは四半世紀である。人の歴史で言えば青年期に入り、最も活力に満ちた年にあたるわけだ。

そこで月並に記念行事となる。デパートなら大セール、会社なら記念祝賀パーティーとなる。ところが、我々もと思ったが、既に五年前の二〇周年で対外的にもアピールをして添うそうこの種で出せる予算もない（これが青年の姿なのか）。そこでやむなく考えついたので、創立以来からずっと続いてる恒例の映画会を二五周年の行事として利用することである。

小田原の映画会は協会創立の翌年、昭和三六年に市内の小学校の体育館を借りて第一回が開かれて以来、ずっと今日まで続いている。これを二五周年記念行事とするのは誠にふさわしいのである。

だが、そこで何をするか。冠だけ二五周年と名打って中身はいつもと変わらない、なんていうのでは芸がない。

会場の小田原市民会館の大ホールは一三〇〇名の収容能力があるがこれが最近満員になる。ある協賛スポンサーいわく、「東京でもこれほど集まらない」そうである。勿論、抽選会目当ての観客が多いのも事実（抽選品の殆どは協賛スポンサーからで、大手旅行会社から街のトンカツ屋さんまで約五〇団体、二五〇万程の協賛品を提供してくださる）。

会場のロビーはかなり広く、映画会の当日は例年ここが協会の社交場となる。久しぶりの友との再開で喜びあうクラブ員や、最近雪の上で見かけることが少なくなった協会OB、遠方から来られた協賛スポンサーの互いに交換する姿、松浦会長がそのなを挨拶して回る。

こうしてみるとかなりの人が映画を見に来るといふより、シーズンを前にして旧交を深めに集まってくるのである。

「そうだ、このロビーを使わない法はない。ここで二五周年らしい行事をやろう。」と思いついたが、与えられた予算は四万。

金を掛けずにできることはただ一つ、協会の二五年の資料を集めて、ロビーで展示をする。これに現在の協会クラブの紹介もいれる。幸い資料は協会の記録の中から、会長・副会長などから貴重なものの提供を受けられた。また、総務が一年間振り続けてきた、協会行事の記録写真も役にたつ（実を言おうと、この目的もあって撮っていたのだが）。

準備は九月から約二ヶ月間、映画と平行して始まった。小田原の場合、映画会等いくつかの行事は、各クラブからの専門委員によって準備が進められる。今回はこれに二五周年専門委員なるものを加え



川崎協会 理事長 藤田 東海道線に對し垂直に、西側に細長く延びている。川崎市の地形は、市の中心が端にある関係から一〇〇万都市と云える。

川崎スキー協会 親子スキー教室10周年

でも何か、人口密度が一部に集中し部分的な高密度になっている。このためばかりではないが、市協の会議、その他の会議で集まる際は溝の口以西の人達に出席を希望する。

今年で丁度一〇周年を迎え記念行事となった。今までは、参加者は子供を含め三五〇名も集まって来る。まあこの川崎の人口に對し決して、スタートしたのである。

作業はおもに資料・写真等の整理と校正、掲示品の割当て作業である。映画会当日まで、四・五回青少年会館等に集まって作業した。終らない物は持ちかえって、中には徹夜で仕上げた者もいるとか。こうしてクラブ員の労作で二五周年の展示品は完成した。

内容はまず、「協会二五年の歩み」として、第一回映画会のプログラム(S36)。小田原から専用列車で蔵王へ直行したときの新聞記事(S39)など、協会の歴史を知ろうと貴重な資料が収集された。

一方、協会の現在を知ってもらおうと掲示したのが「協会の一年」と名づけたコーナー。協会の主な行事を写真で紹介したもので、特

するには大変気の毒な気がする。ところでこの一〇〇万都市に見合う事業と云うことで一〇年前から「親子スキー教室」を実施している。

筆すべきは車山で開いた「技術交流会」。競技に海和俊之、基礎に小林平康の両氏を招いての行事は、見る人の足をためていた。

「クラブ紹介のコーナーは自分のクラブをいかにアピールするの模造紙、雑費等約一、五万、残り専門委員の手当(後日打上げで消化...)。となると、やはり少ないネ。」

作業をしていく過程で、対話が生まれ、仲間意識が生れる。協会もクラブと一体になることが出来たからである。

予算四万円の収支。写真現像・模造紙、雑費等約一、五万、残り専門委員の手当(後日打上げで消化...)。となると、やはり少ないネ。」

多いとは云えないが、これでも指導員数が足りなくなり、逆に参加者の申込みを切らざるを得ないのが現状である。これも皆指導員の高品質者が多いためだろうと当協会では自負している。

これからの様な一般市民に溶け込める事業を実施し社会教育の一端である。

スキー教室開催に熱を入れたいと役員一同張切っている昨今である。

平塚スキー協会

“会長杯争奪ソフトボール大会に各クラブ闘志を燃やす”

今シーズンは相模原スキー協会に對して二五周年の多い年でした。永年一緒に活動してきた仲間が津久井スキー協会として発展的に分離して単独で県連に加盟した。

フットボール大会を始めました。少数のクラブで構成されている当協会ですが協会員は約一八〇名ぐらいいおりスキー以上の張り切りようです。大会終了後は祝賀会及び反省会を兼ねたバーベキュー大会を行うクラブなど楽しい一日を過ごすことが出来ます。今年度はソフトボール大会終了後、参加者全員で会員相互の親睦がより深められれば幸いと考えておりオフシーズンにおけるメイン行事に育て上げてゆきたいと思っております。

(平塚スキー協会)

やったぞ!! 三連覇 相模原

今シーズンは相模原スキー協会に對して二五周年の多い年でした。永年一緒に活動してきた仲間が津久井スキー協会として発展的に分離して単独で県連に加盟した。

フットボール大会を始めました。少数のクラブで構成されている当協会ですが協会員は約一八〇名ぐらいいおりスキー以上の張り切りようです。大会終了後は祝賀会及び反省会を兼ねたバーベキュー大会を行うクラブなど楽しい一日を過ごすことが出来ます。今年度はソフトボール大会終了後、参加者全員で会員相互の親睦がより深められれば幸いと考えておりオフシーズンにおけるメイン行事に育て上げてゆきたいと思っております。

(平塚スキー協会)

とをほじめとして、三塚会長の市民文化賞受賞、山崎副会長の功労者表彰受賞、また大橋由子さんの女性として初めてのデモ認定などいろいろありましたが、何と云っても野辺山で行なわれた第三十八回神奈川県総合体育大会に優勝したことが今シーズンにおける最大の出来事でしょう。

初日の回転で二ノ宮氏が優勝、距離で酒田氏が優勝して若干リードしましたが、二日目の大回転では大滝氏が優勝し得点を稼いだものの総合得点は逆に横濱にリードされてしまいました。

点数差が大きかったので一時は優勝をあきらめざるをえないような状況でしたが、最後のリレー競技に望みをかけて三塚団長以下選手、応援団が一丸となって頑張った結果、総得点が横濱チームと同点となり、種目別の優勝数の差で相模原が総合優勝と決まりました。

第9回神奈川県民体育大会 第42回国体神奈川県選考会 第24回全国中学校神奈川県選考会

第一日目 昭和62年1月26日(月)

種目 大回転

コース 大沢コース

天候 雪

気温 -2℃

成年女子二部

一位 四手井晶子 教職員

二位 巽七由美子 横濱市役所

三位 根尾 友子 IBM藤沢

成年女子一部

一位 井上 玲子 シルバースパーク

二位 山脇 友子 青山学院大

三位 木村ゆき子 東海大学

少女

一位 村本由美子 関東学院

二位 古藤 志保 相模原スキー

成年男子三部

一位 川村 剛 IBM藤沢

二位 岡本 数英 中原リゼ

三位 大滝 久雄 キヤタビラ

成年男子二部

一位 柏木 勉 ウルル

二位 荒谷 芳房 関東自動車

三位 篠村 竹美 カモメレー

成年男子一部

一位 谷川 和久 専修大学

二位 鳥山 央 専修大学

三位 竹節 伸一 慶応大学

少年

一位 鈴木 康朗 法政二高

二位 山口 崇男 横浜高校

三位 本沢 正裕 慶応高校



第7回美津濃杯

●期日 昭和62年1月10(土)

●場所 野辺山スキー場

第一日目

期日 昭和62年1月10(土)

種目 回転競技

コース オレンジライン

天候 晴

気温 +4℃

女子

一位 井上 玲子 シルバースパーク

二位 福原 真澄 世田谷スキー

三位 宇田由紀 日本IBM

第7回美津濃杯

●期日 昭和62年1月10(土)

●場所 野辺山スキー場

第一日目

期日 昭和62年1月10(土)

種目 回転競技

コース オレンジライン

天候 晴

気温 +4℃

男子

一位 井上 玲子 シルバースパーク

二位 福原 真澄 世田谷スキー

三位 宇田由紀 日本IBM

大会記録

成年女子二部

一位 巽七由美子 横濱市役所

二位 四手井晶子 教職員

三位 根尾 友子 IBM藤沢

成年女子一部

一位 井上 玲子 シルバース

二位 堀 亜紀子 女子体育大

三位 西田 真実 川崎ユーベ

少女

一位 村本由美子 関東学院

二位 鈴田 友美 関東六浦

成年男子三部

一位 荒木 豊志 コロボック

二位 岡本 数英 中原リゼ

三位 大滝 久雄 キヤタビラ

成年男子二部

一位 柏木 勉 ウルル

二位 荒谷 芳房 関東自動車

三位 井上 茂考 シルバース

成年男子一部

一位 竹節 伸一 慶応大学

二位 鳥山 央 専修大学

三位 谷川 和久 専修大学

少年

一位 鈴木 康朗 法政二高

二位 海野 太郎 慶応高校

三位 山口 崇男 横浜高校



協会

最初に面白い語になりますが、茅ヶ崎スキー協会は、昭和二十五年に現協長の石田久夫氏の勤務が茅ヶ崎市内に転任となり、登山とスキーの会を設立されたのが初りである。

そして昭和二十七年より、市教育委員会と協力してスキー教室を開催し、本シーズンは第三十五回を数え、記念行事となった。

昭和二十八年五月に、スキー山岳協会として正式に茅ヶ崎市体育協会と神奈川県スキー、山岳協会に加盟し公認団体として発足し昭和二十九年には、スキーと山岳が発展的解消して単独の団体となった歴史的年年であった。

小さなスキー親善使節

雪と自然と心の ふれあいの中から

昭和三十一年十月、SAK評議員会で、準指導員制度が可決施行されてから、スキーブームも一段と盛んになり早速SAKも、昭和三十一年二月に燕スキー場でその第一回検定を開催し、当協会員も一回より毎回受検者も増え、スキーは勉強からこの時代に入った。

当協会も県総体冬季大会では最近下位を低迷しておりますが、驚ろくなかれ、昭和四十年は準優勝、昭和四十二年は優勝と、その当時は上位に名を上げておりましたが、最近はどうしたものでしょうか？

さて、ホームゲレンデはこの十五年間はサンアルピノ青木湖スキー場です。正月のスキースクール、二月の市選手権大会もこの場所で、三月の市民スキー教室は、市の山荘が白樺湖の奥の姫木平にある関係で、エコーレー、たかやま、車山高原で開催していましたが、行事で最も楽しいのは、GWの四月二十九日よりの燕温泉スキー場で、面白なのは、リフトが労基法通り昼に一時休む事です。

スキーを通じ雪と子供と指導員の、心のふれあいが、協調と自立心を育み厳しい自然の中からも負けない体力を鍛えるとともに、安全に、楽しくスキーがマスターできる指導をめざして、ジュニアスキー教室を始めてから今年で九回目になります。

志賀高原丸池を根拠地にしておりませんが、ホテルニュー志賀とイグル観光のご協力のおかげを持ちましてすっかり定着しております。鎌倉が上田市と姉妹都市になっている関係もあって小さな親善使節団が毎年一回スキー交流を行っております。

参加したのは横浜市民を中心に百十三人、三十回目の記念で会場が北海道とあって、希望者が予定人員をオーバーする人気ぶり。年齢も十八歳から七十五歳までと幅広い。主婦のグループあり、会社員のグループあり、スキークラブのグループあり、また個人参加者ありと、構成もバラエティ豊か。四十歳代男女が多数を占めているものの、パワーは若者勝負という一行だ。

札幌はさすがに寒く、しかも三日目は九日ぶりという大雪。直前まで開かれていた札幌雪まつりは暖気に悩まされていたが、スクール中は四日間を通じて最低気温零下一・四度としばれるスキーツアーとなった。

北海道の雪質のよさはだれもが認める。札幌国際スキー場に、石狩平を食べ、飲み歩いた札幌スキーの夜が、一同を強く結びつけたのは言うまでもない。最後に帰路、参加者から拾った声。

「一級検定も受かったし、キューキューという泣き雪の音がたまらなかつた(五十歳男性公務員)」「いい人たち知り合えて期待以上(二十八歳女性・家事手伝い)夜の味がおもしろすぎて十分スキーができた(三十三歳女性公務員)雪の中も移動のバスの中も楽しかった。来年も頑張りたい(四十六歳主婦)」「いろんなスキー場に行け、友達がたくさんできた(二十四歳OL)にしております。

若松会長以下スキーをこよなく愛する約五〇名の会員にはいろいろな職業の方が加入しており、企業内のクラブとは趣の変わった個性のある活動をしております。鎌倉の加盟団体はほとんどが職域団体のクラブなので一般を対象にしたベル・メルは貴重な存在でありこれからの活躍が大いに期待されるクラブです。

代表者 若松民男
鎌倉市浄明寺二二五
Tel〇四五七二四〇八三五

茅ヶ崎 スキー協会 のつれづれ

朝風呂、食事、昼風呂、食事、夕風呂、夜は宿の感謝パーティーで、越の寒梅飲み放題、喰べ放題旅館の名前? CMになるので発表を控えて頂きますが.....ホテル花文の藤巻文司先生に聞けば教えてくれるでしょう。

もう一つの春の行事は、月山鳥海山のスキーです。毎年五月の三日曜日を中心に組んでおり、往路蔵王の苅田岳で一滑り、エコラインを下って月山へ、山菜の行者ニンニク、アイコ、六淨トーフ(カナナで削る)を肴に地酒の「ひとこえ」の冷やで一杯、羽黒山経由で鳥海山ブルーラインで五合目に、このスキーは日本海に向ってのダウンヒル、海の幸、モンゾク(海草)とアオサ、それぞれに捨て難い美味な味である。

この春の二つの行事も今年で十数年、アクセク滑る真冬のスキーと異なりシーズン納めの行事として、県連の十二月の北海道、県指導員会の車山のフェスティバルと併せて

ジュニアスキー卒業生は、〇〇〇名を超える状況で、当初不安を抱きながら企画に当たっていた理事の皆さんも今では自信を持って運営しております。

たくさんの方の感謝状をいただき、またジュニアスキー教室も最初からうまく行った訳ではありません。失敗の中から得た貴重な経験の積み重ねがノウハウとなって蓄積されております。他の協会でも同様な企画をされているところも多いと思われ、情報交換の場をSAKだよりのなかに設けて見てはいかがでしょうか。

北海道で ダイナミック 精喫!!

横浜市民スキースクール

参加したのは横浜市民を中心に百十三人、三十回目の記念で会場が北海道とあって、希望者が予定人員をオーバーする人気ぶり。年齢も十八歳から七十五歳までと幅広い。主婦のグループあり、会社員のグループあり、スキークラブのグループあり、また個人参加者ありと、構成もバラエティ豊か。四十歳代男女が多数を占めているものの、パワーは若者勝負という一行だ。

札幌はさすがに寒く、しかも三日目は九日ぶりという大雪。直前まで開かれていた札幌雪まつりは暖気に悩まされていたが、スクール中は四日間を通じて最低気温零下一・四度としばれるスキーツアーとなった。

北海道の雪質のよさはだれもが認める。札幌国際スキー場に、石狩平を食べ、飲み歩いた札幌スキーの夜が、一同を強く結びつけたのは言うまでもない。最後に帰路、参加者から拾った声。

「一級検定も受かったし、キューキューという泣き雪の音がたまらなかつた(五十歳男性公務員)」「いい人たち知り合えて期待以上(二十八歳女性・家事手伝い)夜の味がおもしろすぎて十分スキーができた(三十三歳女性公務員)雪の中も移動のバスの中も楽しかった。来年も頑張りたい(四十六歳主婦)」「いろんなスキー場に行け、友達がたくさんできた(二十四歳OL)にしております。



嵐 要氏
体育功労賞受賞

新クラブ ペルメル

今シーズンから新たにペルメルスキークラブが加盟いたしました。ちよつと聞き慣れない名前なのでその由来などから同クラブの概略をご紹介します。

ベル・メル(Bell Merl)英語で、「ごちやごちやになって」の意。技術的にも人的にも又地域的にもさまざまな人達が、「ごちやごちや」混ざったなかでお互いを尊重しあい親睦をふかめることをモット

「ごちやごちやになって」の意。技術的にも人的にも又地域的にもさまざまな人達が、「ごちやごちや」混ざったなかでお互いを尊重しあい親睦をふかめることをモット

代表者 若松民男
鎌倉市浄明寺二二五
Tel〇四五七二四〇八三五

第4回カザマカップ スーパーGS大会

期日 昭和62年1月25日(日)
場所 上越国際スキー場

種目	スーパーGS
コース	大沢コース
天候	雪
気温	〇度
女子	一位 西田 真美 ユーベル 秋元由美子 関東学院高 一分17秒36
男子	一位 室星 修一 ユーベル 一分08秒85 二位 伊藤 昭彦 川崎スキー 三位 井上 玲子 シルバースパーク

第2回野辺山林 スラローム大会

期日 昭和62年4月4日(木)
種目 回転競技

女子	一位 井上 玲子 シルバースパーク 一分15秒93 二位 村元由美子 高体連 三位 悪七由美子 横浜市役所
男子	一位 悪七 秀樹 小松製作所 一分09秒89 二位 宮沢 謙 日電玉川 三位 久永 哲朗 スポーツマン
女子	一位 村元由美子 高体連 一分14秒19 二位 悪七由美子 横浜市役所 三位 古藤 志保 城山高校
男子	一位 悪七 秀樹 小松製作所 一分07秒08 二位 宮沢 謙 日電玉川 三位 江部 広治 富士通
少年	一位 菊池 英隆 逗子スキー 一分09秒93 二位 久永 哲朗 スポーツマン 三位 高橋 丈明 平塚スキー

成年男子四部

一位 前田 惣市 ベガサス 一分30秒41 二位 安土 勇 IBM藤沢 一分30秒41 三位 高橋謙吉 平塚スキー	
成年男子三部	一位 吉田 春雄 日立神奈川 一分27秒41 二位 川村 剛 IBM藤沢 一分27秒41 三位 大滝 久雄 キヤタピラ
成年男子二部	一位 柏木 勉 ウルル 一分30秒06 二位 市川 房雄 アルベル 一分25秒66 三位 井上 茂孝 シルバースパーク
成年男子一部	一位 伊東 明彦 川崎スキー 一分25秒66 二位 佐藤 寿夫 日電玉川 三位 河野 大輔 スポーツマン
第二日	期日 昭和62年1月11日(日) 種目 大回転競技 コース オレンジライン 天候 晴 気温 +4℃
女子	一位 悪七由美子 横浜市役所 56秒23 二位 井上 玲子 シルバースパーク 56秒23 三位 長谷川美穂 54秒08 四位 荒木 豊志 東電神奈川 54秒08 五位 前田 惣市 ベガサス 六位 戸島 洋治 ベガサス 第七位 大滝 久雄 キヤタピラ
成年男子三部	一位 大滝 久雄 キヤタピラ 53秒05 二位 吉田 春雄 日立神奈川 三位 川村 剛 IBM藤沢
成年男子二部	一位 悪七 秀樹 小松製作所 51秒78 二位 柏木 勉 ウルル 三位 山根 功 キヤタピラ
成年男子一部	一位 伊藤 昭彦 川崎スキー 52秒44 二位 廣瀬 利文 ウルル 三位 若旅 健二 横浜スキー
少年	一位 高橋 文明 平塚スキー 一分06秒25

スキーを走らせる

南関東スキー合宿

●期 日 昭和62年 4月28日～5月3日
 ●主 催 神奈川県スキー連盟強化部
 ●場 所 秋田県鹿角市秋田八幡平スキー場

基礎体力、基礎技術向上をテーマに四月二十八日～五月三日までの六日間、秋田八幡平スキー場において、今回は特にジュニア強化対策の一貫として、ジュニア選手主体にメンバーを組み、ジュニア23名、一般指定選手7名、計30名で六日間の合宿を天候にも恵まれ予定通り無事終了。



今回の合宿は大回転のトレーニング主体に、補助ポールを利用して基礎技術の習得を三段階にわけて集中的に時間をかけてトレーニングを行った。
 第一段階では、インポールとインポールの中間に補助ポールを立て、補助ポールの位置までしっかりと外足で踏みつけ、一つ一つのターンを確実に仕上げる。その際、ポールの脇で急激なエッジングで無理矢理スキーを回さないことと、補助ポールの位置で二旗門先を見る。そうすることにより自然と先行動作が身につくようになる。
 このトレーニングでは、しっかりと外足に乗る事と、大回転で大切な体を振込まないで正しいライン取りを習得する。(インポールとインポールの中間の補助ポールはあくまで基本であり斜度により違う)この時のセッティングは、左右の振りを大きく、落差を小さく、インターバルを長く深回りターンで、じよじよに左右の振りも浅く、落差をつけ浅回りターンへ

春季アルペン 合宿に参加して

大野北中学校三年 能勢 英理子

四月二十八日から、秋田県の八幡平で行われた、アルペン合宿に参加しました。バスで10時間もかかる遠い所です。しかし東京では見られない、雄大な自然の中での合宿でした。今回の合宿では、基礎練習を中心だったので自分でも良い練習になったと思います。私のこの合宿での目的は、滑る時の、悪いくせを直すという事でした。やはり、滑っている時は、悪いくせが目立ち、コーチにも、さいさん注意されました。それから、練習中にとったビデオを、ミーティングで見せてもらいました。いつも、もっとちゃんと滑って欲しいと思ったのに、ビデオを見せると思っていたら、ビデオを見せると思っていたら、はっけりって、ショックでした。でも、自分の悪

い所もわかって、少しは上達しました。又生活面でも、毎朝6時半の体操と、練習の後の陸上トレーニングと、体力作りの方もやり、そのせいかつかれました。滑る時にも、そのつかれが、日に日に出てきました。とてもよい勉強になりました。
 それから、この合宿に来て、一番良かったと思う事は、いろいろな人と、知り合えた事です。一諸に生活して、助けてもらった。教えてもらった。感謝することはありでした。今度又こういう機会があったら、私も助けてあげられたらいいなと思います。
 本当に学ぶことがたくさんあり、大変でしたが、これからの練習や試合に、役立てていきたいと思っております。

第5回小賀坂杯 スラローム大会

昭和62年3月7日

種目	回轉競技	コース	美奈コース
種目	回轉競技	コース	美奈コース
一位	宇田美由紀	IBM藤沢	1分36秒00
二位	根尾 友子	IBM藤沢	1分36秒00
三位	中岡 令子	IBM藤沢	1分36秒00
一位	井上 玲子	シバハバ	1分32秒65
二位	海沼 康子	東芸スキー	1分32秒65
三位	榎本真由美	富士通	1分32秒65
一位	荒木 豊志	コロポック	1分29秒55
二位	前田 惣市	ベガサス	1分29秒55
三位	高橋 謙吉	平塚スキー	1分29秒55
一位	川村 剛	IBM藤沢	1分25秒16
二位	吉田 春雄	平塚スキー	1分25秒16
三位	三塚 洋二	相雪スキー	1分25秒16
一位	篠村 竹美	かもめ	1分26秒00
二位	江部 広治	富士通	1分26秒00
三位	三塚 洋二	相雪スキー	1分26秒00
一位	若旅 健一	スポートマン	1分27秒66
二位	加山 明人	横浜スベロー	1分27秒66
三位	新穂 浩士	横浜スベロー	1分27秒66
一位	菊池 英隆	逗子スキー	1分29秒85
二位	黒屋 善行	高体連	1分29秒85
三位	本沢 幸祐	慶応高校	1分29秒85

ポイント制度について

ポイント委員 相原 和夫

県連の大会に参加している選手の中には選手会で第一シードの抽せんを御覧になって「どうやって第一シードの選手を選んでいるのか？」と思われることでしょうか。あるいはそれが、ポイント順というのを知っている方も、ポイントと算出して見ると、御存知ない方も多々あると思います。

まず選手の種類別、大会別の技術評価がハッキリできること。それから大会そのもののレベル評価が明確化されます。それによりプログラム編成時におけるシード選手を知ることができるわけですから、また優勝者がワールドカップ

を評価すると思えばよいのです。しかしこれだけでは、大会毎のレベル差がわかりませんので(例えばラップが30秒00のコースの1秒差と90秒00がラップとの1秒差では技術的に大きな差があります)、また優勝者がワールドカップ

こと、(特にラップタイムの選手に0.01秒でも近いタイムを出すこと)SLGS複数の競技に出場すること。(どんなレベルの高い大会で良い成績を修めてもシーズン中一回しか完走しないと補足ポイントがつかないが落ちます)などがあげられます。
 山の雪もどけ皆さんが陸トレにはげまれている頃ポイント委員は電卓片手に皆さんのポイントを計算しているのです。

この時のセッティングは、浅回り、深まわり、落差の変化をつけたセッティングで行う。
 補助ポールを用いた基本トレーニングは、ジュニアに限らずこの時期になつぷりと時間を掛けて行う必要がある。しかし、この様な基本トレーニングは単調で、あきやすく集中力をなくしがちだが、一本一本スタート台で、テーマを頭に浮べてスタートすること、集中した反復練習が必要である。以上6日間、三段階に別けて基

本練習を行った結果、かなりの効果が全員の選手に現れた。ジュニアの時期に徹底した基本を身につけさせること、一貫した指導がジュニア強化に必要である。
 6日間、スキー場関係者、八幡平高原ホテルの皆さんの絶大な御協力を頂きまして、この合宿が無事終了できましたことを感謝致します。又、今後ジュニア強化、一般指定強化の課題も残しており今後さらに充実した、一貫した指導が必要である。
 (ヘッドコーチ 菊地富士夫)

神奈川県スキー選手権大会

昭和62年3月8日

種目	大回轉競技	コース	大沢コース
種目	大回轉競技	コース	大沢コース
一位	岩村 茂	東芝スキー	35分37秒
二位	和田 茂	日産車体	35分37秒
三位	高橋 文三	日鋼京浜	35分37秒
一位	日産車体	2分16秒96	
二位	大久保秀子	中原リーゼン	2分16秒96
三位	宇田美由紀	IBM藤沢	2分16秒96

算出方法は複雑ですが、簡単に書くと、ある大会においての優勝者の所要タイムを0.00と評価し、以下二位以下の選手に優勝者のタイム差に応じたポイントを付けることによりその選手の技術

級選手での1秒差とそれ以下の選手がラップでの1秒差では、大会のレベル差が出てしまいます)そのために大会を評価する計算も別におこないます。
 ポイント制度の利点
 ではポイント制度にはどのような利点があるのでしょうか?

選手からスタートすることは知られていますが、各大会のスタート順決定においてはSAKポイントが最優先して決定しております。良いポイントを得るには、それでは良いポイントを取得するにはどうすればよいことであるか、当然ながら良い成績を修める



この時のセッティングは、浅回り、深まわり、落差の変化をつけたセッティングで行う。
 補助ポールを用いた基本トレーニングは、ジュニアに限らずこの時期になつぷりと時間を掛けて行う必要がある。しかし、この様な基本トレーニングは単調で、あきやすく集中力をなくしがちだが、一本一本スタート台で、テーマを頭に浮べてスタートすること、集中した反復練習が必要である。以上6日間、三段階に別けて基



アルペン

昭和62年3月8日

種目	大回轉競技	コース	大沢コース
種目	大回轉競技	コース	大沢コース
一位	岩村 茂	東芝スキー	35分37秒
二位	和田 茂	日産車体	35分37秒
三位	高橋 文三	日鋼京浜	35分37秒
一位	日産車体	2分16秒96	
二位	大久保秀子	中原リーゼン	2分16秒96
三位	宇田美由紀	IBM藤沢	2分16秒96



懇親会 開催

日時 昭和62年 5月15日(金)
場所 横浜高島屋ローズルーム

雪上行事も一通り完了し、いよいよ落ちた5月、新役員による執行が慌ただしくスタートして今日に至ったためか、「ゲレンデや町中で会っても役員諸氏との面識がなく困った」との意見が、顧問・参与や各協会役員の方々から寄せられ、役員に加え規約・広報・傷対委員と今期新たに設けられた普及・強化委員等のSAK専門委員との顔合せと懇談の会を遅ればせながら企画しご参集願いました。

二、横浜高島屋のローズルームには、黒川名誉会長をはじめ村上・土田・柳沢顧問ほか、楓山・笹野参与の方々に加えて、各協会の会長さんなど、なつかしい顔ぶれが一堂に会した中、黒川名誉会長の挨拶につづき、三塚顧問の元氣な乾杯の音頭で始まった懇談会は、会場の中に幾つもの話の輪が広がり、昔の大会や先日のオール神奈川・指導員フェスティの成績などスキー談義に花を咲かせ、随所から笑い声が絶え間なくきこえ、会は終始なごやかな雰囲気の中

総務部

津久井スキー協会の加盟により加盟団体が十七協会に、また新規所属団体は〇〇クラブが加わり〇〇クラブとなるなど、県連の組織の充実と底辺の拡大が着実に進んでいます。

これら、各地区協会をはじめとする、各クラブの会員の方々のご協力による成果の結果と感謝していただきます。

年度を振り返って

大山 重彦

皆様方に出来ませんでした。今年度の、多くの問題点を次年度の反省として謙虚に受けとめ、新年度からはお互いの対話の機会と場を充実し、よりよい総務部の事務執行を図るべく努力したいと考えてます。

SAK 傷 体 アラカルト

傷害防止対策は我々スキーを愛好とする雪上だけの普及ではなく、日常的に発生する事故防止の思想が大切ではないかと思えます。

現在、SAK所属の公認スキーパトロールも45名(S62年現在)になっており、また、SAK主催による日本赤十字救急法の講習会を開催し、毎年20人前後の救急員の資格があり昭和五十二年以来10年間の実績となり、各クラブで活躍されていると思えます。しかし、その後の傷害防止の普及等に関しては各協会にお願いしているのが現状であります。

スキー場をとりまく環境を見ますと、圧雪車によるゲレンデは整備され、リフトは一段とスピードアップになり、4人乗りやゴンドラ等でどんどん上にのびております。また交通網の発達と共に、新しいスキー場も毎年開発されております。この現状の中でスキーヤ

もスピードを求めることにより傷害事故も年々増加の傾向にあり、死亡事故も今シーズンは四件の報告がありました。

また、一方若者のスキーに対する、多様化によりスキーツアー等も年々さかんになり、それにつれて傷害事故も発生して来ております。楽しいスキー行きも一瞬にして、悔いの残るものとなります。そのため、自前の傷害予防教育とそ

傷害防止対策委員会からお願い

福沢 洋治

一、SAJにおいては教育本部の中に傷害防止対策部が位置づけられ安全対策部と調査研究部がおかれました。(六十二年度より)

二、各クラブ行事に於ける傷害防止への意識向上と各クラブへの傷害防止教育の実施

公認検定員 合格者

- A級 6名
 - B級 26名
 - C級 56名
- (横濱) 千川富司 銭亀英一 金沢正行
(川崎) 原田実 柴田茂
(相模原) 根本孝夫
B級合格者 (長野) 木所実 (横濱)

第五回全関東 スキー技術選手権大会
期日 昭和62年2月6日〜8日
会場 車山高原スキー場

- 濱島雄二 高橋雄二 倉持賢二郎
- 窪田雅彦 斎藤隆夫 鳥場洋一郎
- 桜場正之 山田平次
- (川崎) 森下文 星一広 出沢健一郎
- 清水忠 恩田武男 阿部喜代司
- 笠谷慶一
- (相模原) 大橋由子 佐藤仁志 徳田耕作
- 岸谷圭亮 小林隆二 岡田良平
- (座間) 藤ヶ崎直樹
- (津久井) 郷田一太 柴田利佳子
- (厚木) 木伏恒雄
- C級合格者 (横濱) 神山 篠原祐祐 池田登志男
- 田村俊一 神谷公男 鹿子田浩之
- 山田忠 伊藤武之 千葉豊
- 玉川忠弘 川又政則 中沢康雄
- 相沢重明 清水満夫 村田宗高
- 杉本憲一 広瀬高男 風木沼政博
- 唐川勇 山田豊利 柴田雄一
- (川崎) 秋山英夫 小出修 二木英夫
- 伊藤藤也 秋山憲司 中村明美
- 田中三郎 麻植常春 宮崎信忠
- 佐藤親弘
- (小田原) 市川弘
- (横須賀) 佐藤満
- (相模原) 七山聖学 金子幸輔 高橋直人
- 中谷孝裕 小林誠二 野崎寿徳
- 富樫幹雄
- (藤沢) 小谷浩司 伊藤邦弘 大房泰英
- (鎌倉) 高橋哲夫
- (茅ヶ崎) 榎本勝雄 貝野瀬晃 佐野洋
- (大和) 高橋靖明 齊藤登
- (秦野) 今井勉 綾部靖治
- (足柄) 長田正司
- (厚木) 小堀雅宏 木田文治
- (座間) 星野正徳 細沼晶子

クラウンブライズ
テクニカルブライズ
合格者
期日 昭和62年1月31日(土)〜2月1日(日)
場所 五竜遠見スキー場

第18回
神奈川デモンストラーター選考会
県で初めての女子デモンストラーター誕生
新人4名を含む13人を県デモンストラーターとして認定された。
デモンストラーター認定者
堀 祐樹(横濱)
及川 誠司(横濱)
東海林延友(藤沢)
藤木 茂(横濱)
鶴淵 隆秀(横濱)
佐藤 晴男(藤沢)
川島 康史(横濱)
高木 雅寛(相模原)
桐生 武(大和)
阿部 佳郎(横濱)
森沢 貞雄(川崎)
大橋 由子(相模原)



- A級合格者 (横濱) 千川富司 銭亀英一 金沢正行
- (川崎) 原田実 柴田茂
- (相模原) 根本孝夫
- B級合格者 (長野) 木所実 (横濱)

- クラウンブライズ
テクニカルブライズ
合格者
期日 昭和62年1月31日(土)〜2月1日(日)
場所 五竜遠見スキー場



全日本ベテラン スキーで準優勝



第11回全日本ベテランスキー大会

丸山 禮子 (川崎)

- 第11回全日本ベテランスキー大会 2位
- 第6回オール神奈川スキーヤーズ大会 優勝
- 第3回指導員フェスティバル 優勝

第6回オール神奈川スキーヤーズ大会

期 日：昭和62年2月21日・22日
会 場：上越国際スキー場

指導員が主催

- 競技選手、指導員、一般会員と神奈川のスキー愛好者が集うを旨としたオール神奈川スキーヤーズ大会、今第6回大会は、神奈川県スキー指導員会が主催開催した。主催者が代わっても、例年積極的に参加している、往年の名選手、名レーヤーの熾然たる間はより熾然たる間となったオールドパワールの部。
- 日頃指導に携わり競技会に縁遠い指導員はよりスピーディーなスキイングを指導の場にも実践するにいと滑走する指導員の部。
- 幾分お遊びの大会だがポイントとなる大会として県連公認大会であるため競技選手の一部も熱い闘いが展開される。
- 年々増加が著しい一般の部はより加勢した大会となっている。例年三〇〇名を越す大会となり本企画の主旨である会員相互の親睦もより一層深めることが出来た大会となった。

- オールドパワール(女子)**
- 一位 丸山 禮子 川崎スキー
 - 二位 土田美代子 平塚スキー
- オールドパワール(男子4組)**
- 一位 田中 正誼 いすゞ川崎
 - 二位 土田 弼輔 川崎スキー
 - 三位 内田 鉄蔵 川崎スキー
- オールドパワール(男子3組)**
- 一位 細井 健吾 横浜同好会
 - 二位 石田 久夫 茅ヶ崎スキー
 - 三位 清水 清則 横浜市役所
- オールドパワール(男子2組)**
- 一位 和久井民雄 平塚スキー
 - 二位 村石 勇 いすゞ川崎
 - 三位 安藤 弘基 横浜同好会
- オールドパワール(男子1組)**
- 一位 丹羽 一夫 横浜スキー

- 二位 田村 由郎 スノーメイツ
 - 三位 榎本 賀一 川崎スキー
- 少年少女の部(男子1組)**
- 一位 久永 哲朗 スポーツマン
 - 二位 吉岡 強 神奈川若葉
- 一般の部(女子2組)**
- 一位 吉田 及子 日立神奈川
 - 二位 舟久保みよ子 横浜教職員
 - 三位 鈴木真理子 横浜教職員
- 一般の部(女子1組)**
- 一位 山田恵理子 川崎スキー
 - 二位 松本 美佳 松下通信
 - 三位 岡崎 恵子 川崎ユーベル
- 指導員の部(女子2組)**
- 一位 加藤紀美子 横浜教職員
 - 二位 井戸ゆりえ スノーメイツ
 - 三位 山岸あや子 スノーメイツ
- 指導員の部(女子1組)**
- 一位 毛利 素子 ウィスキー
- 競技選手(女子2組)**
- 一位 鈴木 真弓 スポーツマン
 - 二位 出射 康江 てんぐスキー
 - 三位 大久保秀子 中原リーゼン
- 競技選手(女子1組)**
- 一位 山本 由加 横浜スキー
 - 二位 柿本真由美 富士通
 - 三位 中谷美紀子 ヴィウアント
- 指導員の部(男子5組)**
- 一位 福沢 洋治 横浜同好会
 - 二位 山本 穰 てんぐスキー
 - 三位 山崎 七朗 S C カメ
- 指導員の部(男子4組)**
- 一位 前田 惣一 ペガサス
 - 二位 戸嶋 洋治 横浜同好会
 - 三位 中村 孝 川崎スキー
- 指導員の部(男子3組)**
- 一位 吉田 春雄 日立神奈川
 - 二位 渡辺 良雄 てんぐスキー
 - 三位 善家 英人 川崎スキー
- 指導員の部(男子2組)**
- 一位 細川 直行 平塚スキー

指導員

ふきのとうが雪の間から顔を出しはじめたチョロチョロ冷たい春風が心地よく吹き抜ける車山高原スキー場

春を迎え閑散としたゲレンデに突然スキーヤーが集まってくる。雪を惜しむ最後の最後まで滑る神奈川の指導員達だ。

4月12日、絶体絶命の雪不足の朝、例年でも珍しく冷え込みみ溶け出した雪が凍っている。

快晴、雪質量存?

スタートの合図がゲレンデにこだまする、少女の部からスタートそしてオールドパワール、スタート前の駆引が始まり声援が飛び交う。

第三回指導員フェスティバル

●日時 昭和62年4月11日・12日
●会場 車山高原スキー場

- 例年の和やかなスタート風景は、スキーで結ばれた友情は、より深いためなのかも知れない。
- (少女の部)**
- 一位 鈴木 純子 川崎スキー
 - 二位 三浦 陽子 川崎スキー
 - 三位 中島 智子 川崎スキー
- (少年の部)**
- 一位 池田 彰宏 ペガサス
- (男子の部) 1組**
- 一位 木村 幸子 スノーメイツ
 - 二位 宮谷 淑子 平塚スキー
 - 三位 上野 輝子 スポーツマン
 - 四位 今津 充子 山手スキー
 - 五位 山岸あや子 スノーメイツ
 - 六位 阿久津光代 大和同好会
- (男子の部) 2組**
- 一位 出倉 薫 大和スキー
 - 二位 松井 幾子 スノーメイツ
 - 三位 松村ゆりこ 相模原市役所
 - 四位 米田さきえ 中学スキー
 - 五位 内田 文子 パンブラン
 - 六位 松本 圭子 川崎スキー
 - 七位 穴田 由香 鎌倉スキー
- (男子の部) 3組**
- 一位 喜多川昌子 雪 稜
 - 二位 柳沢須佐男 ユーベル
 - 三位 土田 弼輔 川崎スキー
 - 四位 村上 駒男 川崎スキー
 - 五位 小林 俊輔 バイスパウム
 - 六位 鏡 考作 鎌倉スキー
 - 七位 細井 健吾 横浜同好会
 - 八位 石田 久夫 茅ヶ崎スキー
 - 九位 磯部 優 鎌倉スキー
 - 十位 和久井民雄 平塚スキー
 - 十一位 笹貫 敏男 スペロー
 - 十二位 榎本 勝雄 茅ヶ崎スキー
 - 十三位 田村 由朗 スノーメイツ
 - 十四位 池田 敬昭 ペガサス
 - 十五位 熊谷 義信 スペロー
 - 十六位 大沢 佑吉 川崎スキー
 - 十七位 広瀬 稔 ハマスキー
- (男子の部) 4組**
- 一位 吉田 春夫 日立神奈川
 - 二位 銭亀 英一 ユーベル
 - 三位 穴田 峰昭 鎌倉スキー
 - 四位 細川 直行 平塚スキー
 - 五位 渡辺 康三 山手スキー
 - 六位 池亀 広志 平塚スキー
 - 七位 柳沢 秀行 川崎スキー
 - 八位 佐藤 茂之 横浜教職員
 - 九位 本田 俊章 横浜教職員
 - 十位 笹原 克則 座間スキー
 - 十一位 向井 啓二 川崎スキー
 - 十二位 鈴木 尚史 スポーツマン
- (男子の部) 5組**
- 一位 根元 孝夫 日本電気
 - 二位 鎮目 隆夫 ファルケン
 - 三位 戸沢 真美 泰 雪
 - 四位 徳田 耕作 相模原市役所

- 指導員の部(男子1組)**
- 一位 笠谷 慶一 川崎スキー
 - 二位 唐川 勇 ユーベル
- 指導員の部(男子2組)**
- 一位 松本 正 松下通信
 - 二位 小林 隆二 相 雪
 - 三位 齋藤 聡 松下通信
- 指導員の部(男子3組)**
- 一位 溝口 謙 横浜教職員
 - 二位 井上 幸雄 泰 雪
 - 三位 奥野 誠 てんぐスキー
- 一般の部(男子2組)**
- 一位 岩月 英樹 富士通
 - 二位 前田 民敏 いすゞ川崎
 - 三位 東 隆治 一般
- 一般の部(男子1組)**
- 一位 松橋 昭彦 平塚スキー
 - 二位 菅 誠 日産車体
 - 三位 持田 昌彦 日産車体
- 競技選手(男子3組)**
- 一位 田中 邦規 横浜スキー
 - 二位 川口 典夫 横浜スキー
 - 三位 山田喜一郎 川崎スキー
- 競技選手(男子2組)**
- 一位 大滝 久雄 キヤタビニ愛
 - 二位 中島 真一 スポーツマン
 - 三位 渡辺 康三 山手スキー
- 競技選手(男子1組)**
- 一位 若旅 健二 横浜スキー
 - 二位 山形 智久 一般
 - 三位 柿本 正憲 富士通

編集後記

広報委員の編集後記と言いつつでペンを取ったがさてさて何を書くのかまとまらない頭で一筆！

このたび県連の広報委員と言いつつ初めて参加することになりました。微力では、有りますがよろしくお願いたします。

最初は、月一回程度の会合であったがどうしてどうして、やり始めるのと何と根気のいる仕事、そして小学生のごく字数を数え、紙面の割り付け等も、思っていたより簡単ではなく何と手間のかかること。

話が前後しますが、原稿を依頼する方も依頼される方も、原稿のマス目が一番気になる所と思えます。短かくても長くても、どの様に話を流して見やすくし、皆さんにとって読みやすい配置、そんなことを考えながらの最初の県連だより(私にとって)をお手伝いすることにいたしました。

この県連だよりを手にするころは夏真さかりだと思いますが、しばらくすると、スキーシーズン真近ということになりスキーの手入れ、そして雑誌などがウィンタ

スポーツへと話がはずむようになります。

クローラーを入れながらシーズンのはじめの話の結果(大会記録)そして協会かわらばんと見る人には楽しい紙面だと思います。

私のマス目もなくなりまして一言、皆様の意見等、が紙面に多く出ますように希望いたします。

(金谷)

先日親戚の子供が来宅、せがまれるま、に海へと出かけて久しぶりに泳ぐ事となる。岸よりはりきって人々をかき分けるように泳ぎはじめたものの、七八十米位で息は切れる、苦しいわで岸に戻る様な不甲斐なさいである。年には勝てずと再認識をする。広報関係も全てが初体験で大変勉強になる事ばかりである。

今後諸先輩の指導のもとで迷惑をかける事もなく、泳ぎのようには息切れもせず何となく泳ぎかた、案ずる今日この頃である。

(貝野瀬)

今回初めて県連の広報の発行に携わりました。毎回楽しみに読んでいたS A Kだよりをまさか自分が作ると思っていませんでした。正確には二期目の広報委員であるが、前期はまったくお役に達して

なかつた。今回少しでも手伝いが出来ればと思いはしたが、まったく要領が分からず、たいていわたるままの協力しか出来ないことが自分でも歯がゆい。

また、小田原からの参加で遅刻の常習犯である。

足りない分は、回数で頭張ってみたいもの、何回かパスがあったり、ぎりぎりの原稿を持って事務所へ九時になったり、この原稿も東海道線の中で書いています。

「善ちゃん、待ってて」

マッ出来るだけはしているつもり。

(渡辺)

スキー愛好者の情報交換の場と言つ、「県連だより」の、今編集にあたっては、各協会より選出していたいた、優秀な編集委員の結集の元に、数十回の委員会を開き、原稿集めに苦勞致し、大変遅くなりましたが、ようやく完成と成りました。

広報委員も、各部に立ち寄り、大会、講習、研修会等に出かけてまいり、充実した内容にするよう、努力致すと共に、皆様方の原稿をも期待致します。

(門間)